

今週のメニュー

[トピックス](#)

PVC News No. 75 を発行します

塩化ビニル環境対策協議会

[随想](#)

ルワンダ旅行記(5) - 丘を越えて -

(社)日本化学工業協会 若林 康夫

[お知らせ](#)

「エコプロダクツ2010」出展のご案内

[編集後記](#)

トピックス

PVC News No. 75 を発行します

塩化ビニル環境対策協議会

12月14日に塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)はPVC News No.75 を発行します。今号はトップニュースに「塩ビものづくりコンテスト 2011 キックオフ!」として塩ビ関連団体が団結して進めている、軟質塩ビの特長を活かした作品・デザインを募集するコンテストの開催について紹介しています。

「インフォメーション」のコーナーは2つとし、耐震改修に積極的な茅ヶ崎市の建築行政と、塩ビサイディングの塩害保護効果に関する研究について日本建築学会で発表したことを掲載しています。

No. 75 の構成は以下の通りです。

トップニュース

1. 全国健康保険協会の健康保険証カードが塩ビ製に
2. 「塩ビものづくりコンテスト2011」キックオフ!

視点・有識者に聞く

循環型社会の構築へ、いま何が求められるか?

朝日新聞記者 杉本 裕明 氏

リサイクルの現場から

塩ビ管リサイクルの今/関西地区の現場を訪ねて

(株)竹中工務店と日進化学工業(株)の取り組み

インフォメーション

1. 茅ヶ崎市の建築行政に見る「耐震化対策」の今
2. 塩ビサイディングの塩害保護効果を確認(VEC)

塩ビ最前線

優美な和風空間を醸し出す「塩ビ強化和紙」の50年

広報だより

「松山下水道展」で塩ビ管の耐震性をアピール(塩化ビニル管・継手協会)

「2010年 子どもとためす環境まつりに出展」(東京中央区)(VEC)

「リフォーム博2010」で塩ビサッシ、サイディングの環境性能をPR(VEC)

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

「視点・有識者に聞く」のコーナーでは『循環型社会構築へいま何が求められるか?』と題し、朝日新聞記者の杉本さんにインタビューしました。

杉本さんはリサイクル手法について、日本はとかくマテリアルリサイクルが優先されることに疑問を投げかけ、マテリアル、ケミカル、サーマルリサイクルをバランスよく併用していくことが大事だと述べられています。

「リサイクルの現場から」は塩ビ管リサイクルの現状として、ゼネコンの竹中工務店とリサイクル協力会社の日進化学工業が連携して進めている貴重なモデルケースとして、竹中工務店の作業所で建設廃棄物を分別回収し日進化学工業へ持込み、塩ビを原料化する流れを紹介しています。

「塩ビ最前線」は、優れた耐久性と意匠性に加え、防炎性、二次加工性をそなえる「塩ビ和紙」を取り上げました。

和紙を塩ビシートで両面ラミネートした塩ビ強化和紙は 50 年もの歴史があります。近年一般住宅の障子や商業施設、店舗などのランプシェード、パーティションなどに広く採用されています。

是非ご覧下さい。

『PVCニュース』は [J P E C のホームページ](#) から、最新号、バックナンバー共にご覧頂けます。(No.75 は 12 月 14 日から掲載します。)

ご講読を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。 info@vec.gr.jp

随想

ルワンダ旅行記(5) - 丘を越えて -

(社)日本化学工業協会 若林 康夫

ルワンダは基本的には農業国。コーヒーやお茶が主要作物です。

首都キガリではビルが立ち並び、日本やヨーロッパとほとんど変わらない町並みはごく一部の丘のみで、丘を一つ越えれば、のどかな農村風景が広がります。

ルワンダコーヒーはお隣ケニアと同じ種類で、ちょっと苦味のあるコーヒーです。標高も高いので、キリマンジャロコーヒーと同じ種類のものも栽培されていますが、さすがに、キリマンジャロコーヒーという名前で販売することはできません。

お茶はアフリカンティーと呼ばれるものですが、要するに紅茶の一種。紅茶よりはちょっと強いかもしれません。そのまま飲むと強いので、ミルクティーにして飲むのが基本のようです。

お米の栽培もされており、地方に行くと丘全部が段々畑という風景も見られ、日本から輸入された 運輸(株)などと書かれた中古のトラックが走っていると、ここはどこ? と思ってしまいます。

食事で面白かったのは、バナナ。

熟したバナナは日本と同じようにそのままでも食べますが、熟す前の青いバナナ、お隣の「ウガンダ」ではペースト状にして食べたり料理の材料に使ったりすることが多かった

ような気がします。

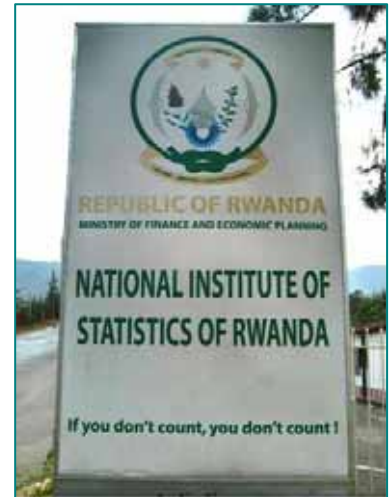
ルワンダでは青いバナナをぶつ切りにしてシチューやカレーに入れます。食感はジャガイモとそっくり。それ、ジャガイモじゃなくてバナナだよと言われるまで気がつきませんでした。。

そういえば、ルワンダでは“パイナップルサンドイッチ”は見かけません。「ウガンダ」流の食べ方だったのでしょうか？

ルワンダは「千の丘の国」と言われるだけに本当に丘が多い。何れの丘もそれなりの高さがあり、傾斜も結構きつく、ちょっと歩くだけでもいいトレーニングとなります。ルワンダでは65歳以上の方が占める人口は2.4%と僅かですが、これだけ丘が多いと、高齢者にはかなりきつい場所といえます。

ごく稀に、車イス（日本のような2輪ではなく、大型3輪車のようなもの。丘が多いため、下るときなど2輪では制御できず、ブレーキもほとんど効かないため、ルワンダの特別仕様？）で動いている方もいますが、下りはいいのですが、丘の上りは一人では登れません。そんな時は、通行人が総出で車イスを押して上がってくるのを見かけることがあります。

また、幼いころから丘の上り下りをしているためか膝を悪くする人も多く、高齢者の話を聞いてみると、ある程度の歳になるとほとんど出歩かなくなる人が多いとのこと。



ルワンダ統計局の看板。
(あなたが数えないと、
数えられない?)

国内交通機関は首都キガリから3時間もあれば国内どこにでも行ける広さなのでバス路線が非常に充実しています。主要な都市間は高速バスが。近郊都市へはミニバスが。ちょっとそこまでの移動にはバイクタクシー（ボダボダ）があります。

「ウガンダ」とは異なり、タクシーは日本と同じ乗用車型の乗り物なので違和感はありませんが、他の交通機関と異なり、割高なので、ルワンダの人はほとんど利用せず、専ら外国人専用といったところです。

空港から利用したタクシーの運転手さんは日本の新聞記者もよく利用しているようで、朝日新聞や読売新聞などこともよく知っていました。英語も非常に流暢で、本当かどうかはわかりませんが各新聞社が通訳兼ドライバーとして利用してもらっているとのことでした。

「ウガンダ」では“自転車タクシー”もありましたが、さすがに丘の多い「ルワンダ」では見かけません。田舎の村などに行くと、村の中の荷物運び屋さんが使っているのを見かける程度です。

丘を越えて自転車で駆け抜けていったのを見たのは、フランスからトレーニングのために来ている自転車競技の選手団だけです。ものすごくいいトレーニングになりそう。。

ミニバスに乗り首都キガリから160Kmほど離れた国境沿いの町に行きました。車内ではカセットテープに録音したルワンダの歌を流し、それに併せて歌を歌う人、自分の子供だけでなく、乗っている子供全員にお菓子やバナナを配る人。民族の壁を越え、千の丘を越え、バスはアフリカの道を走って行きました。(つづく)

前回のルワンダ旅行記(4) - 融和 - は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/294/mag_294.pdf

お知らせ

【NEW】「エコプロダクツ2010」出展のご案内

「エコプロダクツ2010」が下記の要領で開催されます。
塩化ビニル環境対策協議会 / 塩ビ工業・環境協会にて、
「2010年 塩ビの新たな可能性を求めて【New PVC in Tradition】」
をコンセプトとして出展いたします。

塩ビ製品展示、パネル説明、などで、塩ビへのご理解を深めていただきたいと思います。

- ・日 時 : 2010年12月9日(木)～11日(土)
10:00～18:00(最終日のみ17:00まで)
- ・場 所 : 東京ビッグサイト(東1～6ホール)
(VEC小間番号:3-014)
- ・主 催 : (社)産業環境管理協会、日本経済新聞社
- ・入場料 : 無料
- ・[エコプロダクツ2010](#)



(C)エコプロダクツ2010

編集後記

先日、不当表示について消費者庁の方の講演を聞く機会がありました。不当表示というと、「食品で生産地偽装表示!」を連想してしまいましたが、文字化されたものばかりでなく、口頭による広告、映像、音、におい、味までも対象になるとのことで大変興味深く拝聴しました。最近、エコポイントで過熱気味の電化製品に関し気になったことがあります。チラシに大きく踊っている「年補償」。よくよく聞けば、お金を出せばという条件付きでした。「もしかして、これも?」と思いましたが、いろいろな事例を聞くごとに、不当表示の判断は、一見簡単なようで、難しい問題であると感じました。そのために、専門家が目を光らしているんですね。(HI)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601 FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp> E-MAIL info@vec.gr.jp